



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

七中だより



第 2 号 中野区立第七中学校 《学校だより》

令和5年4月24日

学びはつながり、結びつく

校長 上村 諭

始業式のときに2、3年生には「成長が感じられる一年にして欲しい」ということをお話ししましたが、何か目標を立ててみましたか？

皆さんにとっての目標は、学校のことだけではないと思います。検定などの資格取得や習い事の上達を目指す人もいるでしょうか。

1年生は中学校に入学して、授業や部活動の体験入部も始まり、初めてのことばかりですが、まずは自分が「やってみたい」と思ったことは、積極的に取り組んで欲しいと思います。

「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も」という言葉もある通り、行動してみなければなにも始まりません。一步を踏み出すことで、次の道が見えてくることもあります。

自分で可能性の幅を狭めることなく、何にでも興味をもって、挑戦することが大切です。

そして、始めたことは自分が納得するまで続けてみましょう。

すぐに結果が出ないと投げ出したくなることもあるでしょう。しかし、結果が出るというのは、コップから水があふれるようなものです。少し努力をすれば、すぐに溢れる小さなコップもあれば、水をいくら注いでもなかなかいっぱいにならないバケツのような大きな挑戦もあります。

しかし、腐らず水を注ぎ続ければ、いつか必ず満たされる日がきます。もし、その結果が自分の思い通りにいかなかったとしても、あなたには成長に繋がる大きな経験が残ります。まさに「継続は力なり」なのです。

さて、この「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も」と「継続は力なり」は、去年度の小学校の卒業式で送られた言葉です。1年生の皆さんにとって、中学校生活は新たなスタートですが、このように学びは切れることなくつながり、結びついていきます。

新しいことに挑戦すること、粘り強くやり続けることには大きなエネルギーが必要です。自分一人では乗り越えられないこともあるかもしれません。そんなときには、友人や家庭、地域の皆さん、そして先生たちを頼ってください。一緒に切磋琢磨し、時には弱音を吐いたり、ぶつかりながら、成長をしていきましょう。

(4月全校朝礼の講話から)